

## CAD/CAM/CAE システム市場に関する調査を実施(2017年)

### 【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて国内のCAD/CAM/CAEシステム市場の調査を実施した。

1. 調査期間:2017年6月～11月
2. 調査対象:機械系CAD/CAM/CAEシステムメーカー、EDA(Electronic Design Automation)システムメーカー、土木・建築系CADシステムメーカー
3. 調査方法:当社専門研究員による直接面談及び電話・メールによるヒアリング

### 【調査結果サマリー】

#### ◆ 2017年度の国内CAD/CAM/CAEシステム市場規模は3,637億円の見込

日本国内のCAD/CAM/CAEシステム市場規模(メーカー出荷金額ベース)は、2016年度は前年度比6.3%増となる3,513億円となった。2017年度も雇用・所得環境が引き続き改善し、設備投資も生産増や企業収益の改善等により、3～4%程度の増加が見込まれ、2017年度のCAD/CAM/CAEシステム市場(同ベース)は、3,637億円(前年度比3.5%増)となる見込みである。

#### ◆ 保守的な方針の企業が多く、

エンジニアリング分野のクラウド化は大きなインパクトを与えるには至っていない

昨今のクラウドコンピューティングの広がりから、サブスクリプション方式へと転換を図るベンダーや、製造業向けのプラットフォームを提供するベンダーなど、CAD/CAM/CAEシステム市場においては、各社が差別優位性を構築すべく、さまざまな戦略がとられている。

しかし、国内製造業におけるエンジニアリング分野のクラウド化については、いまだ保守的な方針をとるユーザー企業が多く、そうした取り組みはいまだ大きなインパクトを与えるには至っていない。

#### ◆ 資料体裁

資料名:「2017年版CAD/CAM/CAEシステム市場の中期展望」  
発刊日:2017年12月6日  
体裁:A4判453頁  
定価:180,000円(税別)

#### ◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝

設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL: <https://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <https://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL:03-5371-6912 E-mail:[press@yano.co.jp](mailto:press@yano.co.jp)

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。  
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

**【調査結果の概要】****1. 市場概況と展望 –2017年度のCAD/CAM/CAEシステム市場は前年度比3.5%増の見込**

日本国内のCAD/CAM/CAEシステム市場規模(メーカー出荷金額ベース)は、2016年度は前年度比6.3%増となる3,513億円となった。2016年度は個人消費が伸び、公共投資も拡大したことから、景気は緩やかな回復を続けた。また、補正予算で採択された地域未来投資促進事業(革新的ものづくり・商業・サービス開発支援事業、いわゆる「ものづくり等補助金」)の影響などもあり、中小企業の製造業を中心とした設備投資は回復し、CAD/CAM/CAEシステム市場にも好影響を与えた。

2017年度については、雇用・所得環境が引き続き改善し、経済の好循環が進展するなかで、ひきつづき民需を中心とした景気回復が見込まれる。設備投資についても、生産の増加や企業収益の改善等により、前年度比3~4%程度の増加となると見込まれる。こうしたことを背景に、2017年度のCAD/CAM/CAEシステム市場(同ベース)は、3,637億円(前年度比3.5%増)になると見込む。

**2. 注目される動向****2-1. 時期尚早だったサブスクリプションへの移行**

これまでのCAD/CAM/CAEシステムメーカーのビジネスモデルは、その大半がライセンス販売であったが、外資系大手ベンダーがサブスクリプション方式に切り替えつつある。サブスクリプション方式とは、ソフトウェアの利用形態のひとつで、ユーザーはソフトウェアを買い取るのではなく、一定期間のみ借りて、利用した期間に応じて料金を支払う方式である。

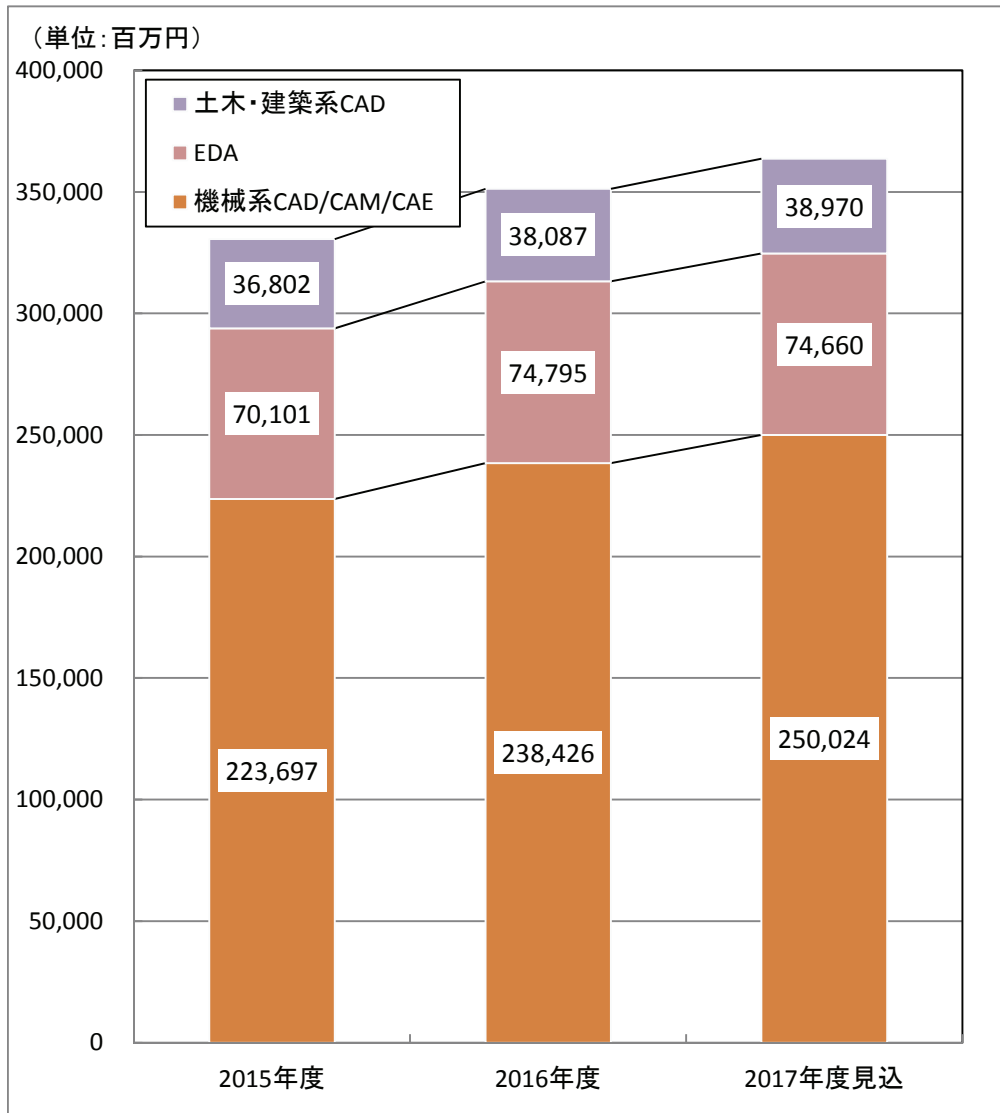
しかし、サブスクリプションへの移行は成功しているとはいえず、時期尚早だったと言えそうだ。サブスクリプション方式は、クラウド経由での提供を前提としたものとなるが、製造業を中心とした日本国内のユーザー企業は、エンジニアリング分野においては、まだクラウドを本格利用するに至っていない。同時に、日本国内のCAD/CAM/CAEシステム市場は、巨大な販売パートナーが多く、かつ、その多くが複数のCAD/CAM/CAEシステムメーカーとパートナー契約を結んでいる。サブスクリプション方式は販売パートナーにとってはメリットが乏しく、従来型の提供形態をとる他メーカー製品への移行提案が起りやすい。

**2-2. CAD/CAM/CAEシステムと昨今のデジタル革命の動き**

昨今、AIが注目されているが、CAD/CAM/CAEシステム市場においては、まだ大きなインパクトを与えてはいない。しかし、ディープラーニングのようなAIは画像処理と相性が良いことから、いずれ利用が進むと考えられる。利用方法としては、例えば、CAEの解析結果をポスト処理した後の画像に適用することで、簡単な一次スクリーニングを行うなどが考えられる。また、過去の図面データを読み込むことで、新たに設計するに際し、類似データを検索するといったことも可能になってくるだろう。

また、プラットフォーム化の進展も注目される動向であるが、上述したようにユーザー企業がエンジニアリング分野においてはクラウドコンピューティングに対し、まだまだ保守的な姿勢が残っているため、それほど大きなインパクトを与えていない。しかしながら、CAD/CAM/CAEシステムメーカー各社とも製造業向けのプラットフォームサービスを提供開始しており、いずれは移行していくものと考えられる。プラットフォームの成否はCAD/CAM/CAEシステム市場の業界地図を大きく変えうる可能性があることから、今後の動向が注目される。

図表 1. CAD/CAM/CAE システム市場規模推移



(単位:百万円)

	2015年度	2016年度		2017年度見込	
			前年度比		前年度比
機械系CAD/CAM/CAE	223,697	238,426	106.6%	250,024	104.9%
EDA	70,101	74,795	106.7%	74,660	99.8%
土木・建築系CAD	36,802	38,087	103.5%	38,970	102.3%
合計	330,600	351,308	106.3%	363,654	103.5%

矢野経済研究所推計

注 1: CAD/CAM/CAE システムメーカー出荷金額ベース

注 2: 2017 年度は見込値